

福岡工業大学 図書館報 2008 Vol.28

Contents

- オリエンテーションに参加しませんか？
- エッセイ「図書館への招待」
- 私のおすすめ本
- 図書館で就活研究
- 研究室訪問
- 話題の書棚から
- 図書館の展示コーナー
- 図書館の豆知識
- 図書館利用状況



- ・ 図書館の中を見てみたい
- ・ 図書館はどう利用したらいいのかな？
- ・ どんな資料があるの？
- ・ 探している資料が図書館にないんだけど…
- ・ オンラインデータベースの使い方が知りたい …など

オリエンテーションに参加しませんか？

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

在校生のみなさんも春休みの間リフレッシュして新学期を迎えられたことと思います。

毎年図書館では新入生を対象にオリエンテーションを行っています。図書館がどのようなところなのか、どんな資料があり、またどのように利用したらよいのかなど、図書館の利用法全般について、よりよく知ってもらえるようにご案内します。

新入生だけではなく、まだ一度も図書館に足を運んだことのない人やもっと図書館のことを知りたいという人も歓迎します。

また雑誌記事・論文や資料の探し方など、インターネットを利用して実習形式で行う文献検索オリエンテーションは、これからレポートや論文を作成する機会の多い学生のみなさんにぜひ参加していただきたい内容となっています。

●新入生オリエンテーション

●文献検索オリエンテーション

申込受付 4月7日(月)から

実施開始 4月14日(月)から

※どちらも年間通して受付・実施できます。

FIT 学校法人 福岡工業大学

福岡工業大学／福岡工業大学短期大学部

附属図書館

図書館報 Vol.28 2008年4月発行

〒811-0295 福岡市東区和白東3-30-1

TEL(092)606-0691 FAX(092)606-7389

ホームページ <http://www.lib.fit.ac.jp>



図書館への招待

— 図書館を利用してみませんか！ Welcome to library! —

福岡工業大学附属図書館長

村山 理一



今年も新しい1000人程度の学生を図書館としても迎えることになるが、どうかこの大学のハード面、ソフト面を余すことなく使い切り、満足感を持って卒業(修了)していただきたいと願っている。大学の重要な要素として附属図書館があり、全国津々浦々、大学(学校！)と名がついて図書館が無いことはおよそ考えられない。しかしながら、昨今は、入館者数、貸し出し冊数の減少に頭を悩ませる日々である。この傾向は、決して本学図書館に限る話ではなく、どの大学図書館でも似たり寄ったりの話である。

この原因として大きく2つの理由が考えられる。第一にインターネットの普及により、従来、図書館でしか得られなかった情報がインターネットを通じて手にはいるようになった。すなわち、わざわざ図書館にまで足を運ぶ必要が無くなってきた。第二に従来の大学講義に対する認識が変わってきた点にある。以前は(少なくとも私が学生であった30年ほど前は)、講義は聞いただけで理解できると思う方が非常識で、理解するためには、大学図書館で、その分野の本を取り替え、引き替え調べあげ、説明の仕方の違いを読み取って自分のものにしていくというのが常識であった。したがって図書館に通わずに講義の単位が取れるとは思わなかった。しかし今は、講義がわからないのは教える方が悪いという風潮が強く、講義に出て座っていれば良いという、いたれりつくせり型の講義もずいぶん増えてきているかもしれない。昔のやり方が全て正しかったというつもりはなく(実は、私もわからない講義なりに、あの講義は含蓄があった、先生の熱意が伝わってきたという思い出と共に、あれは教科書の棒読みじゃないか、あれぐらいなら今日の講義は教科書のこの範囲とだけ言ってさっさと帰って欲しいという思いを記憶に焼き付けている講義も少なからずある)、皆さんの実力を上げていく為のより良い講義を目指すのは当たり前である。しかしながら皆さんは、そのことに胡座をかいてはいけない。教員に熱意が有れば有るほど、皆さんの将来につながるものを与えたいと思う。そうなれば、どうしても自学自習、それも単に演習問題を解く、与えられた教科書の字句を読み暗記する、というのではなく、多くの本を読みあさり調べあげるといった作業が必要な講義になる。そのことを講義の中から汲み取り、もっともっと皆さんには志を高く持って、図書館を使いこなした高いレベルのキャンパス生活を送ってもらいたい。

少し違う視点で述べると、皆さんは、年間100万円前後の講義料等(大学の場合なら4年間で約400万円)をこの大学に支払っている。いわゆる学生の皆さんは大変なおお客様である。しかしこのお客様という言葉で勘違いして貰っては困る。「お客様だから、のほほんとしていたら良い」と考えたなら、これはとんでもない話である。逆である。これだけの

大金を払っているのだから、何が何でも元をとらないともったいないと考えて欲しい。元を取るためには、まず、きちんと講義に出る。これは当たり前のことであり、基本中の基本である。それでよしとするならば本当にもったいない。この大学には学生をサポートする情報処理センター、ものづくりセンター、各研究所等本当に様々な設備と人という資源がある。私は、皆さんにこれらの人的資源とこれらの施設を日々活用して、講義料を2倍、3倍得した有意義な学園生活をおくったと言えるようになって貰いたい。そしてその中核設備の一つとして間違いなく図書館がある。ぜひぜひ皆さんにはこの附属図書館を精一杯使い切っていただきたい。

少し、現在の図書館の使い方をご紹介したい。

オーソドックスには

- (1) 言うまでもなく、少なくとも講義に関連して、閲覧室内本を使って、静かな閲覧室内で予習、復習、調査する。
- (2) 同様に、講義に関連した本を借りて自宅で読む。
- (3) 文献検索を行う(もちろん、今はインターネットに入ればキャンパス内どこでも同じ事ができるし、ぜひそういう使い方も強くお勧めしたい。ただ館内で検索すると検索の仕方や、キーワードの選び方、ちょっとしたことでも相談がすぐできるので、文献検索を効果的・効率的に行うことができる。)

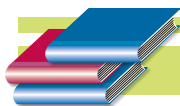
とこれだけではなく

- (1) 自分の探している本や文献或いはどんな本を探したら良いか、図書館員に尋ねてみる。教員に対しても同じであるが、尋ねて嫌がられることはないはずである。もし、そういう経験があるとしたらそれは運が悪かった、交通事故にでも遭ったと思って、懲りずに、ぜひ色々訪ねて欲しい。少なくとも図書館員は全員、皆さん役に立ちたいと心待ちにしています。

はたまた割と今風の使い方としては

- (1) 音楽CDを聞きにくる(貸し出しもあり)。
- (2) 映画等を見にくる。(今は少し古いようだけど、最新のDVDも少しずつ?)
- (3) 文庫本等を読むなど、本当に息抜きにくる。
- (4) 就職活動の為の情報仕入れにくる(専門のコーナー有り)。
- (5) 新聞を取っていない人は新聞を読みに来る。

等々、皆さんで図書館を調べ上げれば、まだまだ有意義な使い方が見つかるはずです。ぜひぜひ、元を取らないと駄目だというぐらいの強迫観念を持ってでも図書館を利用させていただきたい。図書館は皆さんをいつでも待っています。



私のおすすめ本



生命環境科学科
教授

吉川 博道

「司馬遼太郎 / 池宮彰一郎ほか」

多読で乱読であると同時に、気に入った本は何度も読む。好きな作家は、司馬遼太郎と池宮彰一郎、司馬氏の著作はほとんどすべて読んだ。「坂の上の雲」「竜馬が行く」などが代表作に上げられるが、私は初期の作品である「尻啖え孫市」「国盗り物語」に彼のロマンを感じている。池宮氏は視点の面白さにつける。「四十七人の刺客」「天下騒乱 鍵屋の辻」などで、主人公達がみせる善悪を超えた人生観は、一読に値する。少し堅くなるが、梅原猛氏も大好きな著者である。「隠された十字架」「歌の復讐」など大著であるが、読み通した後世界観が変わるかもしれない。夢枕獏氏の「沙門空海唐の国にて鬼と宴す」も秀逸である。塩野七生氏もいい。「ローマ人の物語」などの長編だけではなく、「サイレントマイノリティー」など、エッセイにおける論旨の明確さと切れ味に、長い間男性だと誤解していた。専門分野では、J. モノー著「偶然と必然」、E. シュレーディングガー 著「生命とは何か」、古い本ではあるが意義深い本である。



今回紹介された本は 本学に多数所蔵しています。お気軽にお尋ねください。



総合研究機構
事務長

鏡池 昌俊

風の果て(上巻・下巻) 藤沢周平 著／文春文庫

時代小説の大家として、亡くなった今も大勢の読者の支持を得ている藤沢周平の作品です。この作品は、1988年に発行され、2007年にNHK番組の木曜時代劇にて同タイトルで放映されました。

剣の道場に通う身分の異なる5人の青年のそれぞれの成長をふまえながら、主人公の桑山又左衛門が、下級武士から家老になるまでの夢と野望の物語です。時代小説ではありますが、現代社会に通ずるものがあり、読者をこの作品に引き込ませる魅力のひとつになっています。

藤沢作品の素晴らしさは、物語構成の絶妙さ、また実にリアルな登場人物の描写にあり、人間の「いとしさ、けなげさ、いじらしさ」といったものがふつつつと感じられます。

昔々、某菓子メーカーのTVコマーシャルに「やめられない、とまらない・・・」というのがありましたが、この作品も読み始めたら「とまらない」こと請け合いです。

是非、皆さんご一読あれ。



この本は 福岡市総合図書館に所蔵。本学を通して借りることができます。

図書館で就活研究

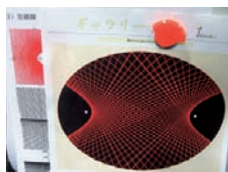


今や必要な情報はインターネットで簡単に手に入る時代です。就職活動についても同様で企業情報などはホームページを参考にすることが多いのではないのでしょうか？しかしそれだけでは物事の一面や浅い情報だけしか得ることができません。インターネットの良い部分を活用しつつ、ほかのツールを参考にしてはどうでしょうか？そんな時に頼りになるのが資料の宝庫・図書館です。就職活動に必要な業界・企業研究、試験対策、一般常識問題集、教養関連資料など支援の一環として色々な資料をそろえています。

目を通しておきたい「日経ビジネス」「週刊東洋経済」などのビジネス誌、時事問題や論文・作文の話題集めに欠かせない新聞類も主要紙はじめ「日刊工業新聞」「日経産業新聞」「Japan Times」など充実のラインアップとなっています。また将来の仕事に活かせる資格取得関連の本も情報・技術・語学関係など多種そろっています。図書館を上手に活用しながら、将来の夢に向かって頑張りましょう！



研究室訪問 システムマネジメント学科 石川研究室 (B棟8階)



美しくも不思議な2次曲線

左の図*注)をご覧ください。赤い直線がびっしり。全部直線のはずなのに、直線の集合だけで曲線が浮かびあがる。この美しくも不思議な双曲線を数学的に説明していくと、石川先生の専門分野である幾何学・解析学へと発展していきます。

研究室には2次曲線の図柄(これがどれも美しい!)の数々や和紙折り紙で作られた正二十面体の模型など、興味を惹かれる物がたくさん。数学がちょっと身近に感じられます。



数学と一口に言ってもその内容は幅広いものがあります

さて、恒例の本棚チェック。研究用の図書から数学をテーマにした読み物まで、数学に関する本が沢山並び。別の本棚には趣味で読まれている塩野七生氏「ローマ人の物語」シリーズや司馬遼太郎全集の姿が見える。本棚から先生が思いのままに本を取り出す。「虚数の情緒」を語る嬉しそうな表情。「多面体おりがみ」を語る楽しそうな表情。それは心底から数学が好きなひとの表情。私もつい取材を忘れて話に聞き入る。

今回私が感じた数学の楽しさ。それを一人でも多くの学生に感じてもらいたい、そう思った研究室訪問でした。(図書館 中山)

*注)この図は「数学博物館」ホームページに掲載されているものです。
(<http://mathmuse.sci.ibaraki.ac.jp/>)



石川 先生



折り紙で作られた正二十面体
これもまた幾何学への足掛かり



折り紙から見えてくる
数学もあります

話題の書棚から

図書館の書架で意外に目につく『理系のための…』『文系の…』というタイトル。文系脳・理系脳、進学も文系・理系と、確かにそれぞれのタイプは存在するようです。きっちりと線引きすることの是非はともかく、本学も学科とそこで学ぶ学生たちのほとんどは数式や記号を扱う「理系のヒト」。そこで今回は「理系」本に焦点を当ててみました。

『理系の女の生き方ガイド』

宇野賀津子 坂東昌子著

B407 / U (3階文庫コーナー)

本学で学ぶ皆さんが将来の進路について考えるとき参考になる本ではないでしょうか。また今から勉学に励む心構えとして読んでみるのも良いかもしれません。「理系の女」と銘打ってあるだけに結婚や子育てと研究の両立などについて書かれていますが、決して女性に限定された本ではないと思います。理系の魅力・研究に必要な覚悟、学会参加やネットワークの活用など内容的には男性にも十二分に通じるものがあります。1冊通して理系で研究し学び続けることへの著者からの熱いエールが伝わってきます。



『理系白書—この国を静かに支える人たち—』

毎日新聞科学環境部著

B402 / M (3階文庫コーナー)

本書は第1回科学ジャーナリスト大賞を受賞しました。現代社会は便利になって快適な生活を送っています。それが当たり前になりすぎて、それを築き支えてきたのは科学技術であることを忘れてがちです。かつてはアトムに夢を馳せ、湯川英樹に憧れた時代もいまや理系離れに悩んでいます。理系は魅力がなくなったのか？理系は報われているか？そんな疑問を文理格差・研究現場・受験システム・報酬など様々な角度から見つけています。決して理系のネガティブな部分ばかりが映し出されているのではなく、あくまでも「理系への応援歌」がモチーフとなっています。ちなみに阿部寛、小田和正、菅直人、カルロス・ゴーン、菊川怜…みんな理系の出身だそうです。



図書館の展示コーナー

平成20年
4・5月編

～新生活応援企画～心も体も健康に～

4月は、入学や進級などで新しい環境での生活が始まったり、新たなコトにチャレンジしてみたり、気分一新、さあ、がんばろう！と思える季節です。気分爽快、エネルギーに満ちた日々ですが、その後、頑張りすぎて無気力疲れた五月病…なんてこともよくあります。そこで、4～5月は『新生活応援企画～心も体も健康に』と題して、レシピ本、暮らしの知恵、ストレス解消本など、初めての一人暮らしや大学生活に役立つ本を集めてみました。上手に気分転換しながら有意義な大学生活を送ってください。図書館入退館ゲートを通過すると目の前に展示図書コーナーはあります。



図書館の豆知識

まめ
7

～知っててトクする図書館のはなし～

【貸出/返却】

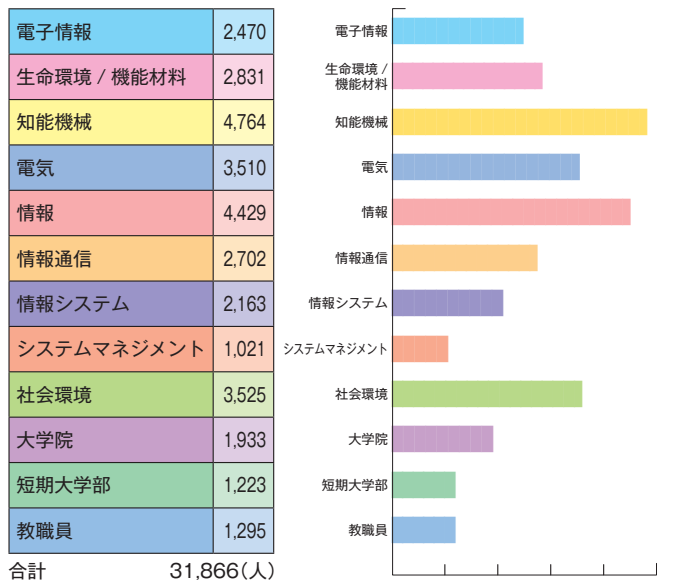
「貸出ですか？」「いえ、借ります」
「返却ですか？」「…？」
「返しますか？」「あ、はい」

カウンターでよく交わされる会話です。いわゆる図書館用語というものですが、これってそんなに特殊な言い方かな…と悩むことしばしば。貸出とは「必要な手続を経て図書館の資料を館外に持ち出して利用すること」を言います。ということは、返却は「貸出を受けた資料を図書館に返すこと」。そんなの当たり前でしょと思われるかもしれませんが、上記のような会話は実際多いのです。貸出と返却、おそらく図書館では一番よく耳にする言葉だと思いますので覚えておきましょう。ついでにもうひとつ、貸出をせずに、館内で資料を読んだり利用したりすることはなんとと言うのでしょうか？答えは「閲覧」です。

図書館利用状況

(平成19年4月1日～平成20年2月29日)

●学科別入館者数



●学科別貸出資料数

